

## 生活

旬のやさしい 冬瓜とうもろこ  
 八月に出荷の最盛期を迎えます。名前に冬がつくのは、切らずに冷暗所で保存すれば冬までもつから。料理の際は薄味に仕上げるのが定石です。

くらしのこよみ

うつくしいくらしかた研究所

## ◎ 東京新聞

## ● 白血病の終末期

Ｔさんは、八十代の女性です。何となく体がだるく、原因不明の発熱が続くので病院へ。血液検査の結果、貧血が分かり、治療を受けましたが、ほどなく白血球や血小板まで少なくなる状態になり、



Dr. 松井英男の

## 在宅医療のカルテ

急性骨髄性白血病と診断されました。抗がん剤治療が始まり、病状は軽快したり悪化したりを繰り返したのですが、次第に抗がん剤も効かなくなっていました。そこで、積極的な治療は中止し、定期的な輸血と抗生物質の投与などで、主に全身の痛みと発熱を和らげる治療に移りました。

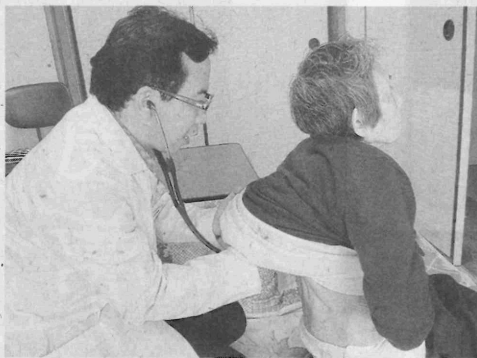
近所に住む娘の献身的な看病を受け、身の回りのこともできるだけ自分でこなそうとしていたＴさん。通院による輸血などは亡くな

る一週間前まで続けられ、自宅で安らかな最期を迎えることができました。

Ｔさんのような病状で、病院で最期を迎えるとなると、集中治療

## 治療継続か中断か

室などで血圧などをモニターされた上で、昇圧剤、鎮静剤、点滴、酸素などの投与と、延命のための多くの処置が行われることになるでしょう。いったん始めたこれら



「はい、息を吸ってください」。聴診をする

の治療を中止すると生命の存続が危ういと分かっている場合、医療サイドとしては、そういった決断をすることに躊躇ちゅうちゆします。

一方、終末期医療では、治療中断で患者の死が早まってもやむを得ないケースがあります。しかし、患者が苦痛を訴えるからといって、過剰な筋弛緩剤きんしかんざいの投与などは、確実に生命を奪うような処置は安楽死に相当します。患者自身が、早くその苦痛から抜け出たいと願った結果にせよ、日本の場合は、医師が殺人罪や自殺補助などの罪に問われる可能性があります。治療の継続か中断か、さらにはどの程度の苦痛の緩和なら許されるのか。常に判断が問われるのです。

(川崎高津診療所院長)

次回は九月一日掲載